

11 研究指導プロセス概要

経済学専攻【博士前期（修士）課程】

時期	項目	内容・目的等
入学前 (入学試験時)	指導教員決定	<ul style="list-style-type: none"> ●面接試験（指導希望教員を含む3名の教員により行う）により、大学院における研究計画案を確認 ●専攻委員会および研究科委員会にて入学試験可否と指導教員決定
1 年 次	4月上旬	研究科主催ガイダンス <ul style="list-style-type: none"> ●研究科長・専攻長による大学院での学修に関する基本的事項の説明
	4月上旬	個別履修指導・相談 <ul style="list-style-type: none"> ●上記ガイダンスの後、指導教員からの個別履修指導（履修相談） 授業履修計画は、修士課程で求められる経済学の基礎知識と、研究計画に必要とされる専門分野の知識の修得という観点より指導する 同時に、専門性を考慮し、副指導教員を決定する ※履修登録および変更には、指導教員の承認が必須 ●研究活動に向けた参考文献・資料等の確認と紹介
		指導教員の演習科目を履修 <ul style="list-style-type: none"> ●複数の指導教員の演習科目を履修 <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画の作成と提出 ・教員指導の下で研究活動の進行 参考文献・資料の収集、理解 先行研究の調査、整理 情報収集やプレゼン技法の基礎を修得 修士論文執筆技法の基礎を修得 なお、指導教員による研究指導は、学生の研究進捗状況により、演習科目以外の時間でも随時行われる また、学生の資質に合わせて、複数の指導教員が連携・分担して上記の研究活動の進行を指導する
11月～12月	修士論文テーマ決定	<ul style="list-style-type: none"> ●修士論文テーマを決定し、指導教員に報告 (この時期に決定できない場合は、遅くとも3月末までには決定する)
2 年 次	4月上旬	個別履修指導・相談 <ul style="list-style-type: none"> ●指導教員からの個別履修指導（履修相談） ※履修登録および変更には、指導教員の承認が必須 ●修士論文テーマの確認 ●研究の進捗状況確認（課程修了に向けたスケジュールの確認）
		指導教員の演習科目を履修 <ul style="list-style-type: none"> ●原則的に複数の指導教員の演習科目を履修 <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画の再検討 ・教員指導の下で研究活動の進行 参考文献・資料の収集、理解 先行研究の調査、整理 調査研究の推進 修士論文の執筆 なお、指導教員による研究指導は、学生の研究進捗状況により、演習科目以外の時間でも随時行われる また、学生の資質に合わせて、複数の指導教員が連携・分担して上記の研究活動の進行を指導する ●修士論文の執筆指導 <ul style="list-style-type: none"> ・修士論文の構成の検討 一例としては以下のような構成となる <ol style="list-style-type: none"> (1) 研究の背景 (2) 先行研究 (3) 理論的・実証的基礎 (4) 分析と結論 ・作成の各段階において報告し、指導教員および演習参加院生より質疑応答を受ける ・指導教員より論文原稿の改善点などの指導を受ける ●修士論文の内容に関しては、次の条件がすべて満たされていることが求められる <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究の背景や目的を理解している ・先行研究や関連する研究等、研究課題に関する知識が整理されている ・研究方法の選択・実行が適切になされている ・論文の体裁（要旨、目次、章立て、図表、データ、式、脚注等）が整っており、正確で適切にまとめられている ・得られた結果と今後の課題について述べている ・引用文献が適切である ・論文内容について理論的にわかりやすくプレゼンテーションでき、質問に正確に答えられる
	12月～ 1月上旬	修士論文加筆・修正⇒完成へ
1月上旬	修士論文提出	<ul style="list-style-type: none"> ●定められた期間内に、修士論文および学位申請書類を大学院事務課に提出

時 期	項 目	内 容・目的等
2 年 次	1月中旬 修士論文受理	●提出論文の受理（1月経済学専攻委員会にて） ●専攻は、学位審査委員会を組織（主査1名・副査2名の決定。主査は指導教員が務め、他の指導教員も副査となる）
	2月上旬 最終審査	●論文審査および最終試験ならびに学力確認の実施 ・審査員および試験官：主査1名・副査2名 ・最終試験は口頭試問により実施（30分のプレゼンテーションと30分の質疑応答） ・学位審査委員会での評価は、審査委員3名の合議により決定
	2月中旬 合否決定	●学位審査委員会が審査結果報告書を作成し、経済学専攻委員会の議を経て、経済学研究科委員会に提出 ●経済学研究科委員会が報告に基づき審議し、合否を決定

※上記は予定であり、内容及び時期を変更する場合がある

経済学専攻【博士後期課程】

時 期	項 目	内 容・目的等
入学前 (入学試験時)	指導教員決定	●面接試験（希望する指導教員を含む3名の教員により行う）において研究計画案を確認 ●専攻委員会および研究科委員会にて入学試験合否とともに指導教員を決定 ●必要に応じて、副指導教員を決定
1 年 次	4月上旬 研究科主催ガイダンス	●研究科長・専攻長による大学院での学修に関する基本的事項の説明
	4月 研究計画の確認	●指導教員による研究計画の確認
	5月～3月 指導教員の演習科目の履修	●研究計画に基づく研究実施 a) 研究報告会（経済研究所主催の八事セミナー等）における報告 b) 国際的ないし全国的規模の学会等における報告 c) 学術論文の執筆と投稿
2 年 次	4月 博士論文構想報告会での報告	●経済学専攻主催「博士論文構想報告会」にて報告し、博士論文を構成する研究構想の承認を得る
	5月～3月 指導教員の演習科目の履修	●研究計画に基づく研究実施 a) 研究報告会（経済研究所主催の八事セミナー等）における報告 b) 国際的ないし全国的規模の学会等における報告 c) 学術論文の執筆と投稿
3 年 次	4月 研究計画の確認	●指導教員による博士論文の構成確認
	5月～11月 指導教員の演習科目の履修	●博士論文の作成 ●研究計画に基づく研究実施 a) 研究報告会（経済研究所主催の八事セミナー等）における報告 b) 国際的ないし全国的規模の学会等における報告 c) 学術論文の執筆と投稿
	12月 博士学位請求論文の提出	●学位論文の提出（学位授与申請） ●12月専攻委員会・研究科委員会 （研究科委員会にて研究経歴、研究業績等を含めた審議の上、学位授与申請の承認） ●学位審査委員会を組織 （指導教員を含む主査1名、副査2名の計3名）
	12月中旬～2月 博士学位請求論文の審査	●博士論文の審査 ●1月末～2月初旬：博士論文の内容、関連科目の学識、および研究能力に関する口頭試問の実施 ●2月専攻委員会・研究科委員会 学位審査委員会は審査の概要を記した書面を付して、所定の学位審査報告書を研究科委員会に提出し、研究科委員会はその報告に基づいて、合否を審議決定する

※上記は予定であり、内容及び時期を変更する場合がある